

令和4年度 第1回 家庭教育研修会

令和4年度第1回家庭教育研修会が、9月17日(土)京丹後市にあるアグリセンター大宮で開催されました。地元である京丹後市PTA会員の皆様には、コロナ禍のためご参加いただくことは叶いませんでしたが、主催の京都府PTA協議会と主管の京丹後市PTA協議会役員で、学校教育の今とネットトラブルから子どもたちを守るために保護者ができることを学ばせていただきました。



開会行事

開会挨拶 京都府PTA協議会 会長 丹羽 寛美
京丹後市PTA協議会 会長 岡田 明久

講話

演題 「GIGA スクール構想について」
講師 京都府教育庁指導部 ICT 教育推進課
指導主事 佐藤 英樹 様
研究員 野村 真司 様

講演

演題 「ネットトラブルから子どもたちを守るために」
講師 京都府警察ネット安心アドバイザー
竹内 義博 様

講話・講演の内容と御礼

はじめにご講話いただきました佐藤様と野村様は、学校で取り組まれている ICT 教育についてクイズや動画上映も交えながらご説明くださいました。



まず、みなさんは“ICT”って何の略かわかりますか？それは、“Information and Communication Technology”（I=インフォメーション、C=コミュニケーション、T=テクノロジー）だそうです。GIGA スクール構想では”Society5.0“という新たな社会を生きていく子どもたちによりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を育むため、新たな学習指導要領をもとに、令和の日本型学校教育がスタートしました。

それは、子どもたちの個別最適な学びにつながるとされ、一斉授業という受動的な学びから主体的な探求学習へと大きく変化しました。それに伴い、学校の先生方も子どもたちに教えるという姿勢から子どもたちの好奇心を引き出す支援中心に変化。ICT 日常化へ向けての3つの段階（わくわく期・やらかし期・安定期）では、今はまさに”わくわく期“であるとされ、今後やってくる”やらかし期“とどう向き合えるかで”安定期“に至れるかが決まるとされました。ICT とどんなつきあい方をすればいいのか、どんなサポートが必要なのか？それは、ポジティブな行動変容を目指すデジタル・シティズンシップ教育において語られたデンマークサッカー協会の『少年指導のための10か条 (<https://ure.pia.co.jp/articles/-/293788?page=1>)』の「サッカー」を「デジタル」に置き換えて読むと学校や家庭での教育のあり方が見えてきます。

その後ご講演いただきました竹内様には、次の“やらかし期”にあたるネットトラブルや犯罪として訴えられる事例などを通し、被害者にも加害者にもなるインターネット利用に対して、相談しやすい雰囲気を作る家族や学校・先生のあり方や、困ったときの問い合わせ先、ルール作りを促すヒントまでも学ばせていただきました。

貴重なお話をお聞かせくださいました佐藤様・野村様・竹内様ありがとうございました。また京丹後市 PTA 協議会の皆様にも、大変お世話になりありがとうございました。

